

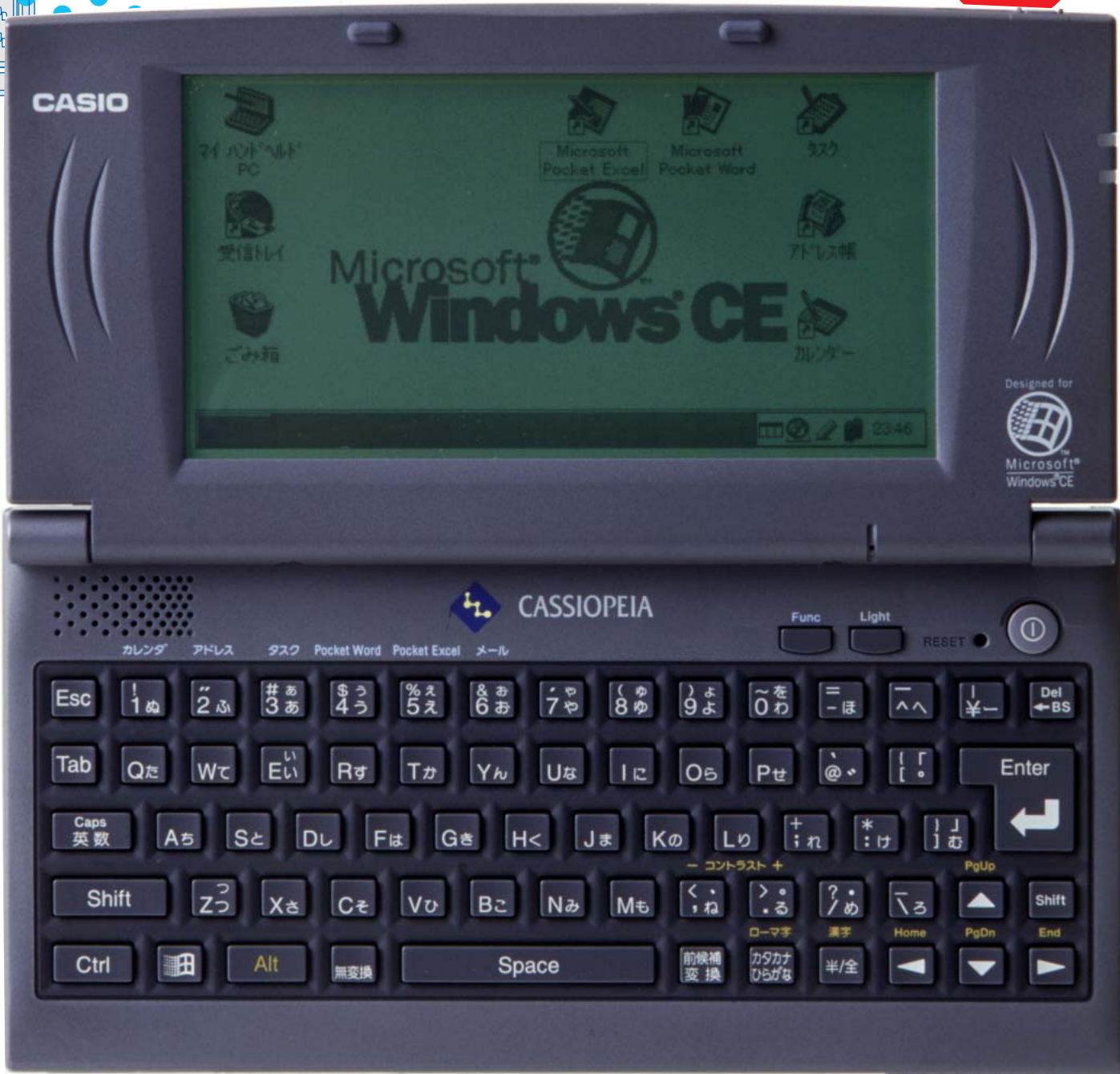
カシオペアで試す

日本語版

Windows CEの実力

この7月について日本語版Windows CEを搭載したマシンが登場した。
それがカシオから発売されたこのカシオペアだ。
この話題のOS搭載のマシンは、果たして“買い”なのか。
そして、Windows CEはどのくらい“使える”のか。
その実力をレポートしよう。

原寸



CASSIOPEIA

『これが話題のカシオペアだ!』

まずは、カシオペアを紹介しよう。写真は原寸大にしてある。その小ささと薄さを見てもらいたい。重さは、電池を入れてもわずか約390g。こんな小さなボディにウィンドウズとそっくりの画面が表示されるから驚きだ。よく見るとスタートボタンやごみ箱、タスクバーなどおなじみの画面が表示されている。まずは、このマシンをじっくり見てみよう。

コンパクトフラッシュカードスロット

コンパクトフラッシュカードを差し込んで、簡単にメモリーを増設できる。差し込むとメモリー用のフォルダーが表示され、ほかのファイルやフォルダーと同じように操作できる。

ACアダプタージャック

専用ACアダプターを入れてメイン電源にすることができる。また、別売りの専用充電電池パックを入れておけば自動的に充電ができる。

RS-232Cコネクター

デスクトップ機などへの接続は、ここにRS-232Cケーブルを差し込む。データの連携には付属の専用ソフトを使う。



バッテリー

バッテリーは単三電池2本とバックアップ用のリチウム電池が1つ。入力を10分繰り返しながら使うと約1.5時間持つ。ただし、PCカードを使うと数時間で切れてしまう。

専用入力カペン(スタイラス)

画面はタッチパネルなので、指でも操作できるが、専用の入力カペンを使えば、より使いやすい。手書き認識をするにも必携だ。紛失しそうでコワイ...



インジケータ

設定されたスケジュールの時間になると赤いランプが点滅する。充電中は緑のランプが点灯する。



PCMCIAカードスロット

TYPE2のPCカードが1枚入るようになっている。右の小さなレバーを手前に起こしてから押すと、カードが簡単に取り出せる。取り出したらダミーカードを差し込んでおく。カシオペアの動作確認済みPCカード一覧はこちらを参照。
<http://www.casio.co.jp/hpc/support/pccard.html>



赤外線ポート(左) データ通信コネクター(右)

赤外線ポート(IRDAポート)を使えば、2台のウィンドウズCEマシン間でデータの送受信ができる。ウィンドウズ95マシンとの接続に関しては、サポートされていない。また、データ通信コネクターと専用ソフトを使ってカシオのデジタルカメラであるQVシリーズの画像を取り込むこともできる(カシオペアのみ)。

画面

ディスプレイは480×240ドットの4階調モノクロ表示。タッチパネルにもなっているので、指や専用の入力カペンで操作できる。ただし、指で操作するのは画面に油が付着して汚くなるので避けよう。

キーボード

テンキーやファンクションキーこそないものの、こんなに小さくてもフルキーボード。小さすぎて、自在に入力するにはかなりの技量と指先の器用さが必要だ。キータッチは電卓のような感じだ。

CASSIOPEIA

| | |
|--------|---|
| 会社名 | カシオ計算機株式会社 |
| 価格 | 88,000円(A-51) 75,000円(A-50) |
| 大きさ | 幅185×奥行き94×厚さ24.5ミリ |
| 重さ | 約390g(単三アルカリ乾電池装着時) |
| CPU | SH3 |
| メモリー | 8Mバイト(A-51) 4Mバイト(A-50) |
| 問い合わせ先 | 03-3347-4811 |
| URL | http://www.casio.co.jp/hpc/ |

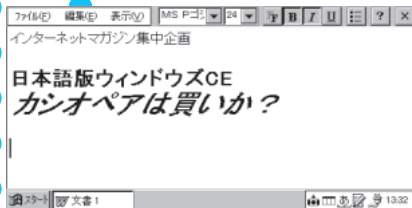
標準装備の主なソフトウェアはこれ!

カシオペアは、ウィンドウズ95を使っていればおなじみのソフトがインストールされた状態で販売されている。まずは、それらの主なソフトを紹介しよう。



Microsoft Pocket Word

あのマイクロソフトのウィンドウズCE版だ。主な操作はワードとほとんど同じ。画像だって文書の中に貼り込めるし、フォントサイズや文字の装飾だってある程度は変えられる本格派だ。

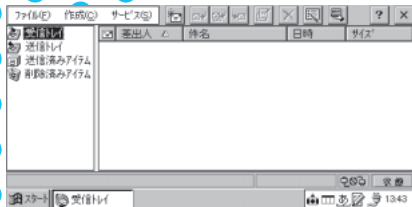


ちょっと凝ったワードの文書もこのように表示される。



受信トレイ

標準搭載のメールソフト。ウィンドウズ95の受信トレイとほとんど同じ操作でメールを使える。ウィンドウがちょっと狭く、ファイルの添付機能が使えないのがただけだが、読むだけなら十分だ。

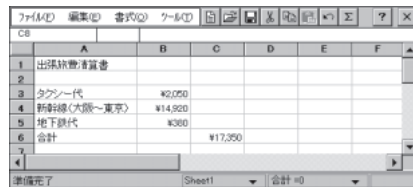


受信トレイを使っている人にはおなじみの画面。



Microsoft Pocket Excel

マイクロソフトエクセルのウィンドウズCE版。こんなに小さくてもエクセルなのだ。100近くの基本的な関数計算だってやってのける。いつでもどこでもエクセルファイルが開けるといっわけだ。

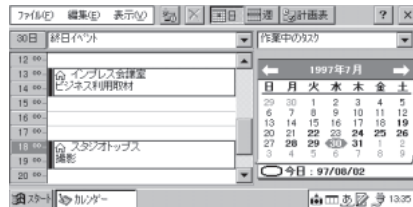


小さくて見えにくいのはしょうがないが、表計算はばっちりなのだ。



カレンダー

スケジュール管理ソフト。アポイントの日付や場所、時間とちょっとしたメモを入力できるうえ、約束の時間の前にアラームを鳴らすこともできる。スケジュールプラスやアウトロック97と連動もできる。



単なるカレンダーとしても便利だ。



Microsoft Pocket Internet Explorer

ウィンドウズCE用のブラウザだ。モノクロ4階層なので、画像を見るには堪えないが文字中心のページを見るくらいならOK。しかし、プラグインやJAVAなどを使った凝った仕掛けのページは読めない。

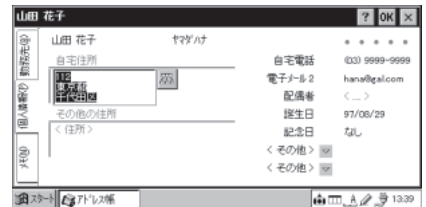


こんな小さくてもネットサーフィンを楽しめる。



アドレス帳

その名のとおり、住所録としても名刺管理としても使える。この小さいキーボードで入力するのは非現実的だが、アウトロック97がスケジュールプラスでアドレス帳を作っていれば、そこからデータを取り込める。



細かい個人情報も入力できる。

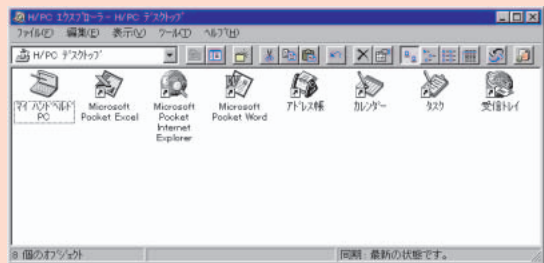
注意

新しいソフトをインストールするにはウィンドウズ95マシンが必要!

カシオペアをはじめとするウィンドウズCEマシンは、CD-ROMはおろかフロッピーディスクも接続できない。新しいソフトをインストールするには、ウィンドウズ95マシンが必要になるのだ。これは、ウィンドウズCEは基本的にウィンドウズ

95と連携して使うことを前提として設計されているからなのだ。マッキントッシュしか持っていないのに、ウィンドウズCEマシンを買ってしまうとデータの連携もできないし、標準装備のソフトしか使えないので、楽しさと実用性が半減してしまうので注意しよう。

ソフトをインストールするには、付属ソフトのハンドヘルドPCエクスプローラを使う。ウィンドウズ95のデスクトップにウィンドウズCEの画面が表れるので、ウィンドウズ95マシンのCD-ROMなどからプログラムをコピーする。



これがハンドヘルドPCエクスプローラの画面。ウィンドウズ95で動く。

ウィンドウズCEとは何か?

カシオペアをはじめとするいわゆる“ウィンドウズCEマシン”に搭載されているOSである“ウィンドウズCE”とはいったい何なのだろうか？ここで、ちょっとこの新しいOSがどんな意味を持つのか解説しておこう。

山本雅史

ウィンドウズCEは デスクトップ機の新しい周辺機器

米国で昨年11月のコムデックスで発表されたウィンドウズCEは、アップル社（現在アップル社の子会社ニュートン社が発売）のニュートンなどのPDAとは少し異なった製品となっている。ニュートンは電子手帳をよりインテリジェント化し、手書き認識や音声認識を使ってユーザーの作業をサポートするようなインテリジェントアシスタンス機能を売りにしていた。

しかし、ウィンドウズCEは使いにくいインテリジェント性というよりも、従来よりもっと小型の“パソコン”を目指したものだ。このため、手書き文字認識の機能はあるが、あまり重視されていない（そのため、キーボードがある）。さらに、ウィンドウズCEに搭載されているソフトも既存のデスクトップパソコンとのデータ連携性や操作性の統一性などを重視して作られている。いわば、ウィンドウズCEマシンは単体で利用できるPDAや電子手帳というよりも、デスクトップパソコンなどと連携して使う新しい周辺機器といえ

るのかもしれない。

ウィンドウズCEの最大の特徴は、「ウィンドウズ95と同じユーザーインターフェース」と「デスクトップパソコンとのデータ連携ができてい」ということだろう。これにより、デスクトップパソコンで作ったデータをウィンドウズCEに自動的にダウンロードしたり、ウィンドウズCEにあるデータをデスクトップパソコンにアップしたりすることも簡単に行える。

ウィンドウズCEはさらに進化する

昨年行われたウィンドウズCEの発表会では、マイクロソフトのビル・ゲイツ会長は「マイクロソフトは、92年から『WinPad』、『Pulsar』と何度もウィンドウズベースのPDAを開発してきたが結局世の中に出すことができなかった。今回のウィンドウズCE（開発コードはPegasus）で、何とか市場にリリースすることができた。これは最終形態ではなく、マイクロソフト社がPDAに取り組んだ第一歩であり、今後もウィンドウズCEをどんどんと進化させていくことになるでしょう」と語っている。

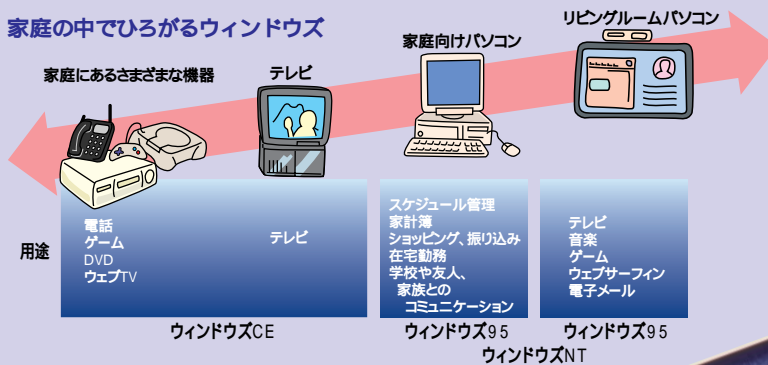
さまざまな機器に入り込む ウィンドウズCE

昨年発表されたウィンドウズCEも今年のコムデックス（11月末）にはバージョン2.0にアップされる予定だ。今回のアップグレードでは、ウィンドウズCE自体のコンセプトも大きく変わってきている。マイクロソフト社では、ウィンドウズCEを単なるPDA用のOSとするのではなく、組み込み機器用のOSとして組み直しているようだ。

これはどういう意味かという、現在のポータブルPCのような形態だけでなく、パイロットのようなデータを見るための機器やカーナビ、テレビや電話をはじめとして、98年にリリース予定のウィンドウズターミナル（ウィンドウズ版のネットワークコンピュータ）のOSとしても使用されるようだ。このように、ウィンドウズCEは、ウィンドウズ95/NTと同じ見た目や操作方法を持った小型OSとしてさまざまな製品に入っていく、ウィンドウズパソコンと連動したサービスを提供できるようにしていきたいとマイクロソフトは考えているようだ。

ただ、マイクロソフトの思惑どおりに進んでいくかは、問題点も大きいし、なによりもアメリカにおいては現状のウィンドウズCEマシンがヒットしていないことを考えると、このままでは失敗してしまうということで、このような大きな方向転換を計画しているのだろうと思われる。

家庭の中でひろがるウィンドウズ



用途

電話
ゲーム
DVD
ウェブTV

テレビ

スケジュール管理
家計簿
ショッピング、振り込み
在宅勤務
学校や友人、
家族との
コミュニケーション

テレビ
音楽
ゲーム
ウェブサーフィン
電子メール

ウィンドウズCE

ウィンドウズ95

ウィンドウズ95
ウィンドウズNT



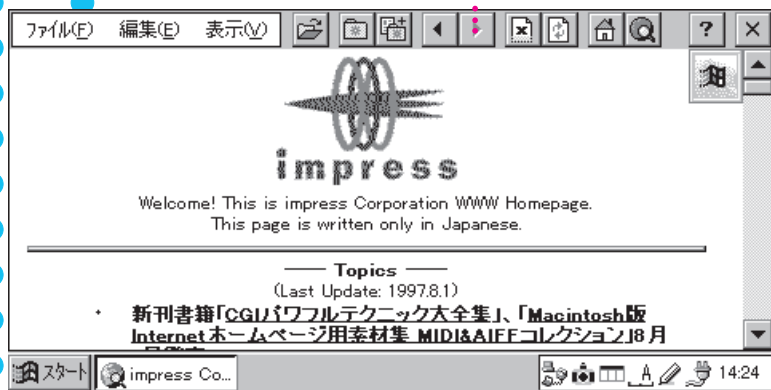
『 Pocket Internet Explorerを使ってみたら 』

インターネットと言えばネットサーフィン。まずは、標準装備されているブラウザを使ってみよう。画面は白黒4階調、こんな小さなブラウザはどこまで使えるのだろうか。もちろん

ん、小さいながらのメリットを生かした使い方があってあるはずだ。この小さなマシンで、どこまで快適にネットサーフィンできるかチェックしてみよう。

これがPocket Internet Explorerだ

“戻る”や“進む”、“更新”や“検索”など基本操作はまったくインターネットエクスプローラと同じだ。



ウィンドウズCE用の専用ブラウザがこれ。URLを打ち込む欄を省略したり、各ボタンが小さくなって狭い画面の制約に対応している。実際にネットサーフィンしてみると、文字は問題ないが画像はほとんど見えない。ボタンのような小さな画像も見えにくい。そのような画像でも表示に時間がかかってしまう。

画像を見ようと思わないで、テキストだけ表示させるモードを使って、新聞などの文字中心の情報ページなどを見るのがよいだろう。

日本語もしっかり読める。字が小さいページだと、ちょっとつらいかもしれない。

こんなに小さいからいつでもどこでもネットサーフィンOK



撮影協力/カフェプレ六本木(03-3505-8221)

手のひらサイズで、重さが約390gだから持ち歩いてかさほど苦にならない。しかも、画面がタッチパネルなので、リンクを指でクリックすれば気軽にウェブを見ることができる。これなら、歩きながらだってネットサーフィンできるというわけ。

朝刊はダウンロードして、ゆっくり読むのがCE流?



いろいろなソフトが開発されるのが楽しい。ウィンドウズCEだが、なんとホームページ録画ツールが存在する(説明は、254ページ参照)。これを使えば、朝ごはんを食べている間に朝刊ページを読み込んでおいて、あとでゆっくり電車の中で読むなんてこともできる。この小ささだから満員電車でも苦にならないかも。

画像を見るのはあきらめよう

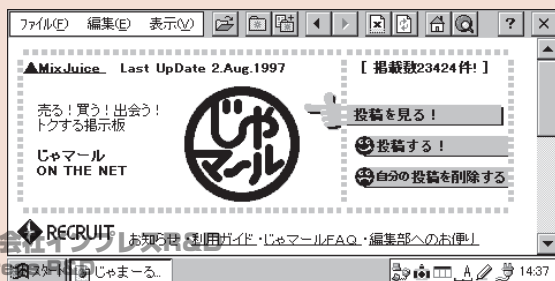


画像をふんだんに使ったページにアクセスしても、ほとんど見えない。モノクロ4階調の悲しいところだ。画像はあきらめて、文字を見るためのものと考えたほうがよいようだ。



小さくて白黒画面に合わせたウィンドウズCE専用のページも登場!

小さな画面で白黒だから当然だが、普通のページは読みにくい。ところが、最近になってウィンドウズCE専用のウェブページが登場してきた。画面の大きさに合わせて作ってたり、画像を使うのを極力抑えたりしている。今後、このようなページが増えてくるのに期待したい。

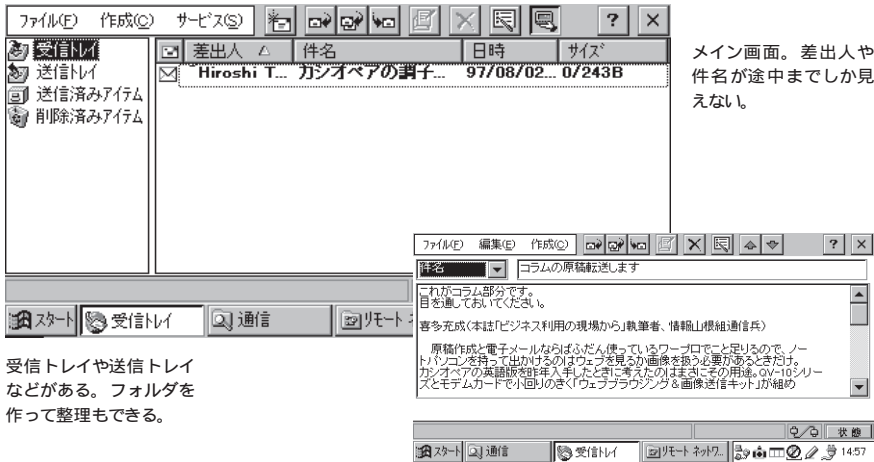


受信トレイでメール機能を使ってみた

ネットサーフィンできるなら、やっぱりメールだって使いたい。いや、それどころかまずはメールさえ見られればOKだっていう人も多いだろう。ウィンドウズCEには“受信トレイ”

という見慣れたメールソフトが装備されている。文字だって小さいし、キーボードだってかなり小さいこのマシン……、メールを使うのに本当に便利なのだろうか!?

これがウィンドウズCE版の受信トレイだ



受信トレイや送信トレイなどがある。フォルダを作って整理もできる。

メイン画面。差出人や件名が途中でまでしか見えない。

この画面も見慣れている人は多いかもしれない。見ての通り、ウィンドウが狭いので若干文字が読みにくいのが難点。

しかし、便利な点としてはメッセージのヘッダーだけを読み込んだり、読み込むメールの行数を制限したりする機能があるところだ。これなら、必要なメールだけを選んで全文をダウンロードすることができる。あくまで、どんなメールが誰から来ているのかの確認するのに使うというのがよいだろう。

メールの受信画面。ウィンドウの狭さがちょっと気になる。

起動からメール受信まで30秒でOK!



起動までに時間がかからないのがうれしい。スイッチを入れてからメールを取るのに、ものの30秒でOKだ。ノートパソコンならまだ起動中だったりする。しかも、ISDN公衆電話の上になんて置きやすい。

ほんの短いメールなら手書き認識でも十分!



このキーボードでちまちまとメールをタイプするのは正直いってかなりツライ。そんなときは、手書き認識を使おう。手書き認識機能をワードで使うのは非現実的だが、「メール見ました。OKです」くらいの返事なら手書き認識を使えば楽ちんだ。

ファイル添付機能はまだ使えない



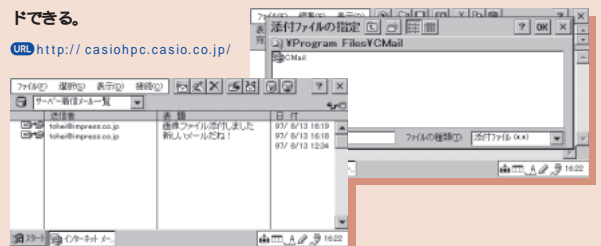
現在のところ、ファイルの添付機能は使えない。しかし、画像を送るにしても白黒だし、ファイルを送るといってもPocket Wordファイルなどを相手に送っても仕方がない。大きなファイルを添付して送られてきてもメモリーが少ないのだから困ってしまう。割り切って考えればあまり気にすることはないのかもしれない。

新しいメールソフトも間もなく登場!

CASIO インターネットメールVer.1.0

ファイル添付機能などを搭載した新しいメールソフトもついにリリースされた。これを使えば、画像などのやり取りも簡単にできる。入手方法は、カシオペアクラブというカシオペアを購入した人だけが入会できる会員制のウェブサイトからダウンロードできる。

URL <http://casiohc.casio.co.jp/>

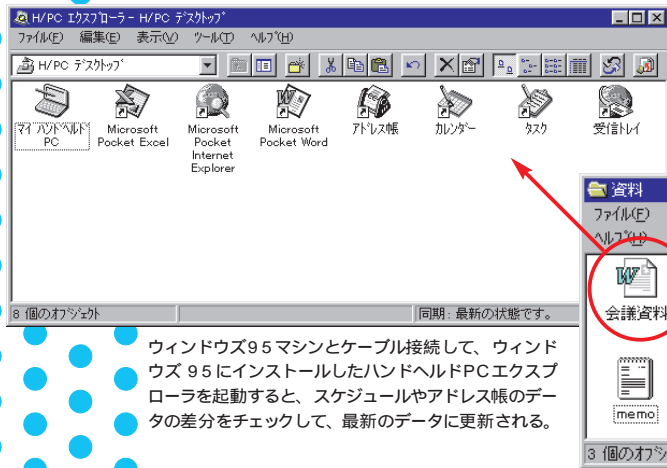


『 ウィンドウズ95マシンと連携すればさらに便利に・・・ 』

カシオペアの本領を發揮するのがウィンドウズ95との連携だろう。249ページでも紹介したように、デスクトップ機の新しい周辺機器として真価を發揮するからだ。スケジュールや

アドレス帳のデータ、ワードやエクセルなどのファイルなど日常使う主なデータのやり取りが非常に簡単になっている。どのくらい簡単なか見てみよう。

これがハンドヘルドPCエクスプローラだ



ウィンドウズ95マシンとケーブル接続して、ウィンドウズ95にインストールしたハンドヘルドPCエクスプローラを起動すると、スケジュールやアドレス帳のデータの差分をチェックして、最新のデータに更新される。

カシオペアとウィンドウズ95の架け橋になるのがこのソフトだ。架け橋というよりも“窓”といったほうがいいかもしれない。画面を見てもらえば分かるが、ウィンドウズ95からすればカシオペアは1つのウィンドウとして見える。まさに、ウィンドウズ95の“一部”として働いてくれるというわけだ。

ファイルのコピーは、特別な操作はいらない。このウィンドウにアイコンをドラッグするだけ。

会社の書類を、会社の外で
ゆっくり読める

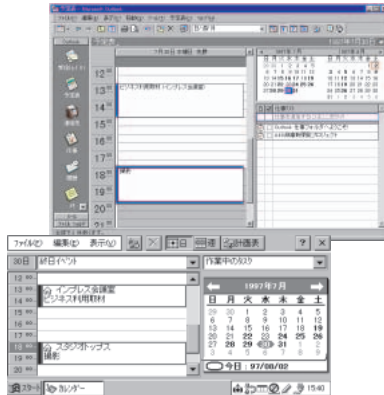
Good!

スケジュールが自動的に連携する
からアポのすっぽかしたってナシ?

Good!



こんなに軽量なマシンでワードやエクセルのファイルが読めるのはうれしい。書類をちょっと持ち出して、喫茶店でチェックなんてことも簡単だ。凝った表現をした文書だって、結構読めるから驚きだ。ただし、読むだけのものと考えておいたほうがいい。こんな小さなキーボードで書類を作っていたら、タイプミスが多くて叱られるのは間違いなし……。



もし、スケジュールプラスやアウトLOOK97を使っていればウィンドウズ95のほうに入力しておいたスケジュールはカシオペアに自動的に反映されるし、その逆ももちろん。いつでも最新のスケジュールをどちらかのマシンでチェックすることができる。しかも、カシオペアの場合、閉じている状態でも、アポイントが迫ってくると本体のランプが光って知らせてくれる。これはうれしい機能だ。

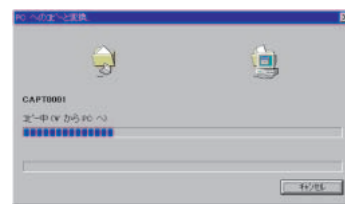


ここまで同じように見えるから驚きだ。

No good!

RS-232Cケーブルでの接続が問題アリ...

カシオペアとウィンドウズ95を結ぶのは、RS-232Cケーブルだ。このおかげでモデムを使うときにはケーブルをいちいちつなぎ変える必要がある。ただし、ケーブルの切り替えスイッチを買えば問題は解決するので安心を。もう1つの問題は、19200Kbpsという転送速度だ。人にもよるが、スケジュールの同期やコピーの遅さが気になる。

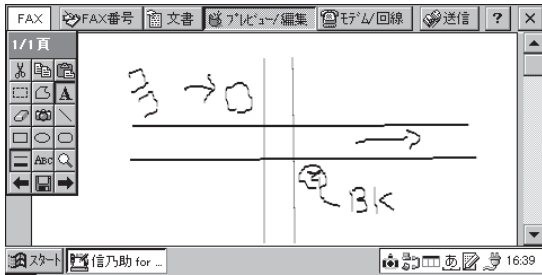


『こんな使い方もできるのがうれしいのだ』

カシオペアが他のPDAと違うのは、使い道の広さではないだろうか。パソコンほど凝ったことはできないけれど、PDAほど使い道が制限されているわけでもない。それを中途半端と

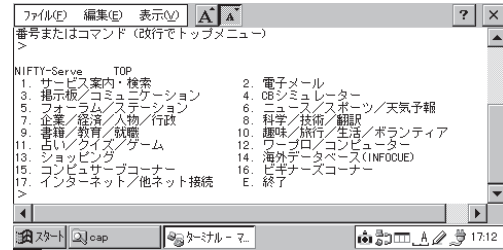
見るか楽しいと見るかは意見の分かれるところだが、ここでは、こんな使い方もあるということを紹介しておこう。詳しいソフトの内容は次のページで紹介しよう。

地図を手書きして、そのままファックス送信!



ペイント機能とファックス送信機能を備えたうれしいソフトが存在する。これを使えば、待ち合わせ場所を手書きでちょっと書いて、ファックスで送信なんてこともOKというわけだ。これはなかなか便利だ(説明は254ページ参照)。

パソコン通信だってもちろんアクセスOK

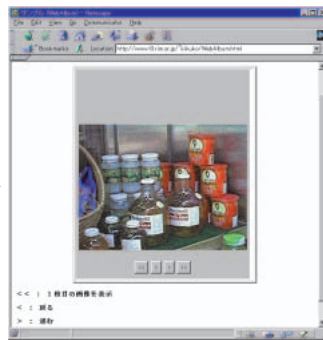


ニフティサーブなどのパソコン通信経路でメールを受けている人も多いだろう。ウィンドウズCEだってちゃんとパソコン通信にアクセスできる。通常のパソコン通信ソフトだけでなく、自動巡回ツールだってあるから快適に使えるというわけだ(説明は255ページ参照)。

QVシリーズのデジカメ画像をウェブにアップロード



撮影協力 / カフェデブレ六本木



カシオペアにしかない機能だが、専用の接続ケーブルを使えばデジカメの画像を取り込むこともできる。しかし、白黒4階調で見えるの?と思うことだろう。はっきり言って、見えない。使い道は、ウェブへのアップロードだ。デジカメ画像をウェブに置き、見たい人にURLを教えればOK。あとはブラウザで見てもらおう(説明は254ページ参照)。

手書き認識を使ってみた

搭載されている手書き認識機能はどのくらい認識してくれるのだろうか。普段ワープロばかり使っているうえ、字が下手な編集者が思いっきり使ってみた。



ひらがな&カタカナ編

ひらがな&カタカナの認識はなかなかだ。画面を見てもらえば分かるが、ここまで下手な字でも認識してくれる。“っ”や“だ”のような促音、濁音もばっちり。認識には、1文字1秒くらいかかるのがちょっと気になる。だが、認識率は予想以上だった。



漢字編

小学校で習うような簡単な漢字はなかなかの認識率だ。ちょっと難しい漢字も、認識させるコツを覚えれば結構認識する。コツとは、書き順を正しく書くということ。漢字の手書き認識はどうも書き順が認識材料として重要になっているようだ。書き順が間違っていると、まったく論外の漢字を表示してしまう。

日本語の文章編

漢字やひらがな、数字やカタカナを混ぜて書いてみた。結構しっかり認識してくれるので驚いた。ただし、鉛筆で書くよりも、ゆっくりしっかり書こう。それを意識するだけで、誤認識率はかなり減ってくれる。



使い道いろいろ専用ソフトウェアガイド

無数に存在するウィンドウズCE用のソフトウェアは、使う楽しみを広げてくれる。インターネットツールはもちろん、役立ちツールやゲームまでバリエーションいろいろだ。このペー

ジでは、特に面白そうなものをピックアップして紹介しよう。ここで紹介するものはすべてカシオペア付属のCD-ROMに体験版を含めて収録されている。

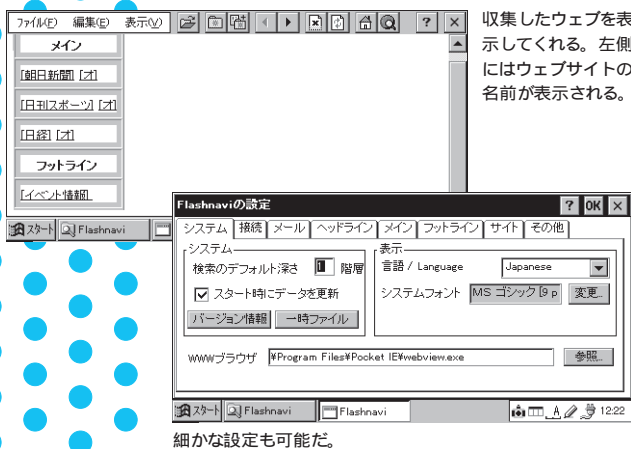
ホームページを録画して、電車の中でじっくり読む？

FlashNavi

本誌でも何回か紹介したが、波乗り野郎のようなホームページ録画ツールがこれ。指定したウェブのデータを記録して、回線を切ってからゆっくり読めるというもの。収集した文字のデータをスクリーンセーバーとして表示する機能もある。

会社名：セック・インターナショナル

URL <http://www.kk-sec.co.jp/secint/>



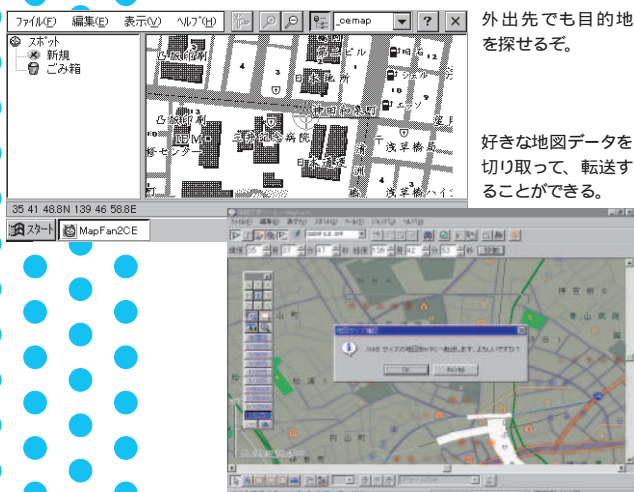
お出かけ前には、CEに地図を入れておこう

MapFan2CE

地図ソフトのMapFan2のウィンドウズCE版。ウィンドウズ95版の地図データの好きな部分を切り取って持ち歩くこともできる。また、そのデータの上に目的のアイコンを表示することもできる。

会社名：インクリメントP

URL <http://www.incrementp.co.jp/indexj.html>



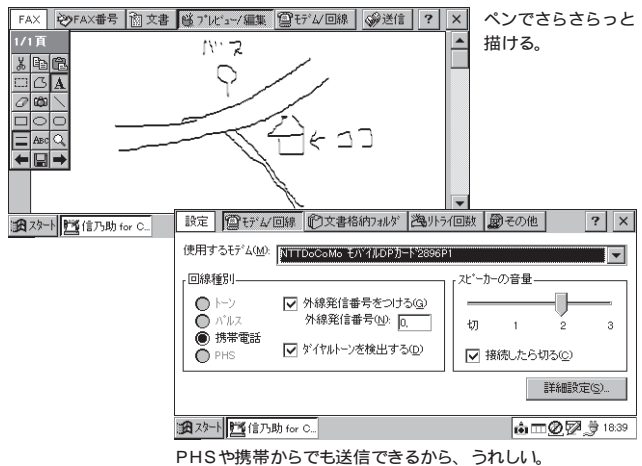
ペンで入力した手書きの絵をファックス送信できる

信乃助 for CE

ペイントソフトとファックス送信ソフトがセットになっているソフト。入力ペンでさらっと地図などを書いて、ファックス送信ができるというもの。もちろん、受信だってできる。これなら、外出先からでも気軽にファックスが使えるというわけ。

会社名：コムユース

URL <http://www.comuse.co.jp/>



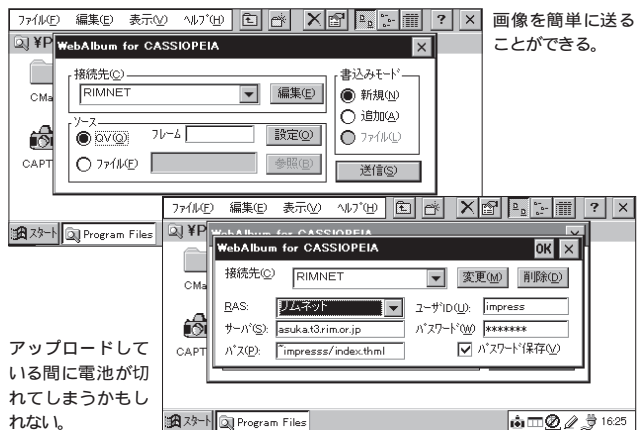
QVシリーズで撮影した画像をウェブにアップロード

Web Album V1.0.0

カシオのデジカメであるQVシリーズの画像を取り込んでウェブにアップできるこのソフトはカシオペア専用のものだ。専用のケーブルで接続する必要がある。カシオペアに転送しなくても、QVからダイレクトに送ることもできる。

会社名：ソリトンシステムズ

URL <http://www.soliton.co.jp/>



ニフティサーブの自動巡回ツールだ

Luna-Term

ニフティサーブユーザーなら必携のソフトがこれ。ニフティサーブへの自動接続はもちろん、メールの管理や各会議室への自動巡回もこなしてくれる。ひととりの機能が備わっているのに、ニフティユーザーには手放せないものになるぞ。
会社名：CASIO/コムユース



自動巡回ツールとして本格的な機能を備えている。

TELNETだってFTPだってできる！

Internet Tools for CE

どうも、インターネットはTELNETで使うほうが慣れているんだよねという人にオススメ。TELNETとFTPがセットになったこのツールは、ちょっと通なユーザーにぴったりの一品。

会社名：ソリトンシステムズ

URL <http://www.soliton.co.jp/>



キャラクターベースの標準的なTELNETソフトだ。



GUIで操作できるFTPソフト。人によっては重宝だろう。

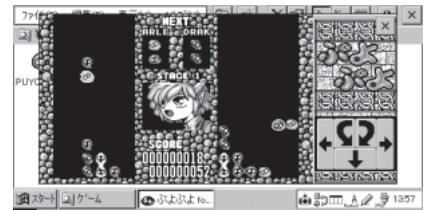
仕事の合間は、ぶよぶよで気分転換！？

ぶよぶよ for Windows CE

仕事ばかりで疲れたという人にはやっぱりゲームだ。これはなんとあのぶよぶよだ。移動中の電車の中でも楽しめるのがうれしい。この他にも、麻雀や将棋、シューティングゲームなど数多くある。これは楽しみだね。

会社名：クエスト

URL <http://www.quest-kk.com/>



1人プレイモードのみだが、これははまるぞ。

モバイルの達人に聞くカシオペアの感想

日本語版ウィンドウズCEマシンとしていち早くデビューしたカシオペア。その実力はいかに？
 普段からモバイルを生活の一部としているプロたちにその感想を聞いてみた。

松倉秀実

(弁理士、情報携帯端末評論家、「本誌ネットワーク時代の知的所有権」執筆者)



カシオペアは、初の日本語版ウィンドウズCEとして発売された機種なので期待していましたが、やはり1号機はこんなもんかなというのが正直な印象です。まず、全体的にマツタリとした動作をしてくれます。レジューム機能からの復帰時間はまずまずですが、ポケットワードなどのアプリを新たに起動するときには砂時計がかなり長い時間表示されてイライラします。また、キーボードは男性としては小さな手の私でもタッチタイプは難しい状況です。同時期に発売されたライバルのパワーザウルスがカラーであるにもかかわらずキビキビと動き、かつキーボードもそこそこ使えるのに比べるとやはり残念です。これらの点が改善されるであろう2号機以降に期待したいところです。

喜多充成

(本誌「ビジネス利用の現場から」執筆者、情報山根組通信兵)



カシオペアの英語版を昨年入手したときに考えたのは、小回りのきく「ウェブブラウジング&画像送信キット」が組めるのではと期待したんです。だけど、日本語化する暇もなく、そのうちに日本語版が出てしまった...同じ機能を実現しているパワーザウルスのような強力なライバルも登場しているとはいえ、それぞれ独立して使えるPDAとデジカメの組み合わせで、実売10万円以下というのは説得力ありますよね。小さくて軽いから、蟻が転落死しないのと同じで壊れにくいし、仕事で使うときにバックアップにもう1セット持っていくとしても苦にならない。これ、堅牢であるということと同じ意味ですから。やはり、カシオペアとQVは、簡易な移動画像送信キットとしては今のところ最も有力な組み合わせじゃないでしょうか。

山本雅史

(コンピュータジャーナリスト、米国版カシオペアもパイロットも試したPDA愛好家)

Photo P255-3 入る
 指定範囲内左右中央

米国でカシオペアを見たときから思ったのが、中途半端なマシンという印象。持って歩くには、ちょっと大き目だし、原稿を書くためのパソコンとしては機能不足が目立ってしまう...。おもちゃとしては新しいジャンルとして面白いが、かといって毎日持ち歩く道具(ツール)としてはちょっと使いにくい。

それなら、ウィンドウズCEマシンを親機として、時計大くらいの大きさのワイヤレス子機をオプションとして作ってもらおう。そうすれば、親機をかばんに入れたまま子機で、スケジュールや電話番号が手元ですぐに調べられるようになって便利なツールになるのに。そんなやつ、どこかメーカーさん作りませんか？

『 カシオペアをパワーアップする周辺機器たち 』

細かい周辺機器を付けてパワーアップするのもまた楽しみです。メモリーやバッテリーなど、弱点を十分補ってくれる機器がたくさん存在する。今後もいろいろ出てくるのが予想されるが、まずは主なものを紹介しよう。

クレードル

持ち歩いているカシオペアとウィンドウズ95マシンを接続するのに、いちいち接続ケーブルとAC電源コードを突っ込むのは面倒だ。この機器にカシオペアをくっつければ、電源コードも接続ケーブルも簡単に接続できる(4,000円)



リチウムイオン充電電池パック

カシオペアの電池パックにそのまま装着できる充電電池パック。充電は、付属のACアダプターでできる(6,000円)



コンパクトメモリーカード

メモリーが少ないのが泣き所だが、このカードを突っ込むだけでメモリーが増設できる。たくさんファイルを持ち歩いたり、たくさんアプリケーションを入れたいときには必携(4MB: 17,000円 / 10MB: 28,000円)



モデム & ファックスカード

PIAF対応カード

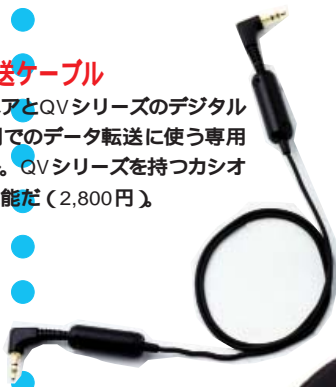
PCカード各種

PCMCIAのカードが1枚入るので、用途に合わせてさまざまなPCカードが使える。カシオペアでの動作が確認されているPCカードは下記のウェブページで公開されている。

URL <http://www.casio.co.jp/hpc/support/pccard.html>

データ転送ケーブル

カシオペアとQVシリーズのデジタルカメラの間でのデータ転送に使う専用のケーブル。QVシリーズを持つカシオペアならでは機能だ(2,800円)



専用バッグ

専用の小型バッグ。両サイドに板が縫い込んであるので、ショックをやわらげてくれる。贅沢を言えば、PCカードやケーブルを入れるところや、ペンを差せるところがあるととってもうれしい。しかし、これなら安心して持ち歩ける(2,600円/アイツ・モバイル専科)



入力ペン & ボールペン

右に回すと入力ペン、左に回すとボールペン。付属のペンよりも持ちやすい。逆に回すと悲惨なことになるので注意(980円/ラオックスザ・コンピュータ館)



『モバイルギアのウィンドウズCE 登載モデルがついに登場!』

日本語場ウィンドウズCEを搭載したモデルの第2弾がついに登場した。NECから発表されたこのマシンは、あのモバイルギアにウィンドウズCEを搭載したものだ。

ハードウェアの仕様が決まっているウィンドウズCEだが、それでも少しずつ変えて特徴を出している。カシオペアとはどう違うのか、それを中心に見ていこう。

(写真は原寸ではありません。モデルはMC-CS12)



本体

全体は、すべりにくい素材を使用しているため手にしっくりとなじむ。大きさはカシオペアに比べて横幅が1センチほど小さい。厚みは、モデムを内蔵しているためモバイルギアのほうが少し厚くなっている。

キーボード

ウィンドウズキーがなく、全/半キーの位置が微妙に違う。キータッチはカシオペアに比べてちょっと硬い感じた。こちらへんは好みの分かれるところだろう。

開閉ボタン

画面を開けるときには、これを押さないと開かないようになっている。



専用入力ペン

画面を開かないと取り出せないようになっているので、まちがって抜けてしまうという心配がない。

ACアダプター

カシオペアに比べ、モバイルギア(左)のACアダプターは非常にコンパクトになっている。



PCカードスロット

PCカードスロットにはふたが付いて、PCカードを抜くと閉まる。これは非常に使い勝手がよい。

内蔵ファックスモデム

モバイルギアCEの最大の特徴は、モデムを内蔵していることだろう。転送速度は14,400bpsだ。その代わり、フラッシュメモリーカードの slots がなかったりする。



Mobile Gear

| | |
|--------|---|
| 会社名 | 日本電気株式会社 (NEC) |
| 価格 | 89,000円 (MC-CS12) 73,000円 (MC-CS11) |
| 大きさ | 幅175 × 幅97 × 厚さ27ミリ |
| 重さ | 400g (単三アルカリ乾電池装着時) |
| CPU | VR4102 |
| メモリー | 8Mバイト (MC-CS12) 4Mバイト (MC-CS11) |
| 問い合わせ先 | 03-3798-2088 |
| URL | http://www.psinfo.nec.co.jp/mg/ |



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp